

# 船舶事故調査報告書

平成23年7月7日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 横山 鐵 男（部会長）  
 委員 山本 哲 也  
 委員 石川 敏 行  
 委員 根本 美 奈

事故種類	衝突
発生日時	平成22年7月11日 19時50分ごろ
発生場所	北海道増毛町増毛港北防波堤灯台から真方位296°27.8海里（M）付近（概位 北緯44°03.8′ 東経140°57.4′）
事故調査の経過	平成22年8月5日、本事故の調査を担当する主管調査官（函館事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	A 漁船 第八十八 <sup>やわた</sup> 八幡丸、170トン 123842、個人所有 29.78m（Lr）×6.36m×2.51m、鋼 ディーゼル機関、漁船法馬力数450、昭和54年12月 B 漁船 新生丸 <sup>しんせい</sup> 、19トン HK2-20582（漁船登録番号）、個人所有 18.33m（Lr）×4.44m×1.78m、FRP ディーゼル機関、603.11kW、昭和62年6月
乗組員等に関する情報	A 船長A 男性 29歳 三級海技士（航海） 免許年月日 平成13年6月4日 免状交付年月日 平成18年5月25日 免状有効期間満了日 平成23年6月3日 漁ろう長A 男性 55歳 B 船長B 男性 50歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 平成元年2月23日 免許証交付日 平成20年2月25日 （平成26年2月22日まで有効）
死傷者等	A なし B なし
損傷	A 左舷中央部外板凹損及び擦過傷 B 右舷船首外板損壊、球状船首凹損及び船首部マスト曲損等
事故の経過	A船は、船長A及び漁ろう長Aほか6人が乗り組み、増毛町増毛漁港北西方沖27.8M付近において、いか釣り漁のために船首を北東方に向けて漂泊して操業中、船長Aは、甲板上でいかの手釣り作業に当たり、漁ろう長Aは、船橋で椅子に腰掛けて当直に当たった。

	<p>船長Aは、肉眼により左舷方から接近するB船の灯火を認め、衝突の危険を感じた。</p> <p>漁ろう長Aは、レーダーにより左舷方から接近するB船を認め、衝突の危険を感じ、衝突の約30～40秒前に汽笛を数回鳴らした。</p> <p>B船は、船長B及び甲板員Bほか5人が乗り組み、自動操舵により、針路約116°（真方位、以下同じ。）、対地速力約10.5ノットで増毛漁港に向けて航行中、船長Bが、操舵室右舷側の椅子（以下「右舷側の椅子」という。）に腰掛けて1人で船橋当直に当たった。</p> <p>船長Bは、レーダー及び肉眼により、船首方4M付近に漂泊して操業中のA船の集魚灯を初認し、A船に約1～2Mまで接近したのちに転舵して南側を避航しようと思ったところ、甲板員Bが昇橋してきて右舷側の椅子に腰掛けたため、操舵室後方へ下がり、あぐらをかいて床に座った。</p> <p>船長Bは、甲板員Bに今後の操業形態等の説明をしていたが、機関音が大きいので甲板員Bを手招きして近くに呼び寄せ、会話に夢中になってA船を避航することを失念していたところ、操舵室内がA船の集魚灯で明るくなり、慌てて機関を中立とした。</p> <p>両船は、平成22年7月11日19時50分ごろ、増毛港北防波堤灯台から296°27.8M付近において、A船左舷中央部とB船右舷船首部とが衝突した。</p> <p>A船は、自力で留萌港へ入航し、B船は、自力で増毛漁港へ入航した。</p>	
気象・海象	<p>気象：天気 晴れ、風向 北東、風力 2、視界 良好</p> <p>海象：海面 平穏</p>	
その他の事項	<p>B船は、ふだん、船長Bが1人で船橋当直を行っていた。</p> <p>船長Bは、衝突する瞬間にA船の汽笛が聞こえた。</p>	
分析	<p>乗組員等の関与</p> <p>船体・機関等の関与</p> <p>気象・海象の関与</p> <p>判明した事項の解析</p>	<p>あり</p> <p>なし</p> <p>なし</p> <p>A船は漂泊中、B船は南東進中、増毛漁港北西方沖において、両船が衝突したものと考えられる。</p> <p>漁ろう長Aは、左舷方から接近するB船との衝突の危険を感じ、汽笛信号を行ったものと考えられる。</p> <p>船長Bは、前方で漂泊中のA船の集魚灯を初認し、接近すれば避航することとして航行中、甲板員Bとの会話に意識を集中し、A船を避航することを失念したことから、A船に向けて航行し、A船と衝突したものと考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、夜間、増毛漁港北西方沖において、A船が漂泊中、B船が南東進中、船長Bが、甲板員Bとの会話に意識を集中し、A船を避航することを失念したため、両船が衝突したことにより発生したものと考えられる。</p>	